8　芸術（書道）

学校番号	T2101

平成３１年度　芸術科

教科	芸術	科目	書道Ⅱ	単位数	2	年次	３～４
使用教科書	書道Ⅱ（東京書籍）						
副教材等	なし						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・小学校、中学校の書写の授業で学んだことを発展させて、芸術科書道では用具用材の違いによる表現の違い等を学びましょう。
・平仮名から入り、篆隷行草から楷書に至るまで様々な書体を体験し、筆の弾力を使いこなし、自分らしい文字を書くことが出来るようになることをめざします。
・身近に飾れる作品を作ることで達成感を味わい、書を愛好する心情を育てます。

2　学習の到達目標

書道の幅広い活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、書写能力の向上を図り、表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばし、書の伝統と文化についての理解を深める。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:書への関心・意欲・態度	b:書表現の構想と工夫	c:創造的な書表現の技能	d:鑑賞の能力
観点の趣旨	書の創造的活動の喜びを味わい、書の伝統と文化に関心をもって、主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとする。	書のよさや美しさを感じ取り、感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫している。	創造的な書表現をするために、基礎的な能力を生かし、効果的な表現の技能を身に付け表している。	日常生活の書の効用や書の伝統と文化について幅広く理解し、その価値を考え、書のよさや美しさを創造的に味わっている。
評価方法	観察 レポート ワークシート ポートフォリオ	観察 レポート ワークシート ポートフォリオ 提出作品	観察 レポート ワークシート ポートフォリオ 提出作品	観察 レポート ワークシート ポートフォリオ 提出作品

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

月	題材名	学習内容・活動	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
後期中間考査まで	①書と文化 ●書と周辺文化の歴史	●書と周辺文化の歴史	○			○	a：書の変遷や周辺文化に興味・関心を持ち，積極的に理解しようとしている。書が，時代や周辺文化と深く関わりながら変化してきたことを理解しようとしている。 d：書の変遷や周辺文化について理解している。書が，時代や周辺文化と深く関わりながら変化してきたことを理解している。	観察 レポート ワークシート ポートフォリオ 提出作品
	②漢字の書の学習	1. 篆書の古典に学ぼう ◆清時代の書と篆刻 2. 篆刻・刻字に学ぼう 3. 隷書の古典に学ぼう ◇清時代の書 4. 草書の古典に学ぼう	○	○			a：篆書に関心を持ち，様々な古典の書風の特徴を理解しようとしている。篆書の字形や用筆の特徴に関心を持っている。古典の書美と表現技法に関心を持ち，意欲的に臨書や鑑賞に取り組んでいる。清時代の書と篆刻に関心を持っている。書と篆刻の表現の関係について理解を深めようとしている b：篆刻の手順に従い，姓名印の表現を工夫している。刻字の手順に従い，刻し方や彩色など，刻字の特徴を生かした表現を工夫している。各古典の字形や用筆などの特徴をとらえ，書風を生かした表現を工夫している。 c：各古典の字形や用筆などの特徴をとらえ，書風を生かした表現をすることができる。 d：様々な草書の書風の違いを理解している。草書の用筆や運筆の特徴を理解している。古典の書美とその表現技法を理解している。漢字の書体の変遷を理解している。	観察 レポート ワークシート ポートフォリオ 提出作品
後期期末考査まで	③仮名の書の学習	1. 仮名の書の美を知ろう 2. 高野切第一種に学ぼう 3. 関戸本古今和歌集に学ぼう 4. 散らし書きの古筆に学ぼう	○	○	○		a：仮名の書の変遷や周辺文化に関心を持ち，積極的に理解しようとしている。仮名の書が，時代や周辺文化と深く関わりながら変化してきたことを理解しようとしている。野切第一種の美に関心を持っている。古典の書美と表現技法に関心を持ち，意欲的に臨書や鑑賞に取り組んでいる。 b：高野切第一種の線質や字形の特徴などを理解し，書風を生かした表現を工夫している。関戸本古今和歌集の線質や	観察 レポート ワークシート ポートフォリオ 提出作品

							字形の特徴などを理解し，書風を生かした表現を工夫している。 c：寸松庵色紙の線質や字形，紙面構成の特徴を理解し，書風を生かした表現をすることができる。表現形式に応じて，全体の構成を工夫することができる。	
	④漢字仮名交じりの書の学習	1. 漢字仮名交じりの書とは 2. 思い･ことば･書 3. 古典に学び表現を工夫しよう 4. 自分らしい表現を求めて 5. 表現を楽しもう		○		○	a：漢字仮名交じりの書の変遷や周辺文化に興味・関心を持ち，積極的に理解しようとしている。日本語の表記が，時代や周辺文化と深く関わりながら変化してきたことを理解しようとしている。漢字仮名交じりの書の表現に意欲的に取り組み，表現の構想から完成に到るまでの充実感や達成感を味わおうとしている。 b：感興や意図に応じた表現を構想し，工夫している。古典に基づく表現を工夫している。表現形式に応じて，全体の構成を工夫している。 c：古典に学び，漢字と仮名の書風や用筆を調和させて書くことができる。用具・用材の特性を生かして，様々な表現を試みることができる。効果的に表現するため，行の長さや行間を工夫して表現することができる。 d：字仮名交じりの書の変遷や周辺文化について理解している。日本語の表記が，時代や周辺文化と深く関わりながら変化してきたことを理解している。書表現により，自らの思いを他者に伝えることがきることを理解している。古典に基づく表現と個性的な表現について理解している。藤原定家の果たした役割を理解し，個性的なその書のよさを創造的に味わっている。	観察 提出作品

※　表中の観点について　a:書への関心・意欲・態度　　b:書表現の構想と工夫
c:創造的な書表現の技能　　d:鑑賞の能力

※　原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。